

読者選考委員賞

からくづくし

花洛尽～都絵師の洛中洛外顛末記～

読者選考委員賞とは？

京都文学賞の作品選考に参画いただいている読者選考委員が受賞作を選定する賞として、第4回から創設。
読者選考委員が最終選考作品を読み、その中で最も評価を得た作品を「読者選考委員賞」に選定。



相棒の三左の視点で源四郎の特異さ、情熱を描いたことが、源四郎という特別なキャラクターを際立たせていて、とても良かった。



「ダイバーシティ & インクルージョン」という現代のテーマも取扱っている点が単なる時代小説とは一線を画している。

たくさんのエピソードが盛り込まれていたが、それぞれが絡み合いながら物語が構成されていた。笑える場面や感動的な場面、ファンタジーもあり、読者を飽きさせない。



VOICE

読者選考委員の声

from
Selected General Readers

長編になると登場人物が多くなるが、関係性も分かりやすく、魅力的な人物たちだった。

京都の風俗、習慣、伝統、伝説が豊富に描かれており、読むにつれて情景が鮮明によみがえる。



ストーリーの完成度がずば抜けていた。歴史小説ではあるが、語り口調は現代的なので、誰にでも楽しめる作品だと感じた。

涅槃図や洛中洛外図屏風の本物を実際に見てみたいと思わせる作品だった。



多数の参考文献を土台にして、源四郎と三左が天下一の絵師を目指し奮闘する様子がコミカルに描かれていて好感を持った。